



表紙は語る

山幸彦・日の出町と 海幸彦・新島村

コロナ明けの議員視察は、大沼弘一村長と共に、友好町村である東京都日の出町への表敬訪問。東海汽船高速船内のプロモーションビデオでおなじみの大都会・東京の秘境、秩父多摩国立公園の表玄関口にあたります。都心から西へ往復4時間、日帰りのかなり強行軍でした。国の実勢は都会ではなく田舎や僻地の暮らしが示すと聞きますが、訪れた日の出町はそれを体現した緑豊かで落ち着いた、美しい地域でありました。

福祉の町として高齢者施策および子育て支援の充実を支える財源は、工業団地への企業誘致、なかでも平成19年の「イオンモール日の出」は人口の増加にも大きく繋がったと聞きます。産業振興に苦慮している新島村が、日の出町から学ぶべきは一体何か。改めて大きな課題を与えられた視察でした。
(関連記事10ページ 文:大沼 由美子)

- 2…一般質問
- 9…一般会計補正予算
- 10…特集:視察レポート
- 14…広報編集委員会より
- 15…議長のあいらんど、編集後記
- 16…スピーカーズコーナー



このたびの元日から続く能登半島地震において被害に合われた方々のお悔やみを申し上げます。

議員公務は1月3日から開始しておりますが、議長祝辞を交えてご挨拶とさせていただきます。

1月3日に行われた「新島村20歳の集い」では、成人年齢、飲酒可能な年齢との違いなどを踏まえて、自らの判断基準と相手を尊重した選択を述べさせていただきます。

『アルコール度数の多様化』から、各自の島度数の違いについて投げかけ、20歳を迎えた彼らがこれから多様な関わり、混ざり合いを経験してくれることを期待します。

続く6日の出初式では、能登半島地震から『いつ起こるかかわらない』、北九州市小倉で続く

火災から『一度あっても終わりとは限らない』、羽田空港の事故より『非常時であっても日常的な確認』などの教訓があったことを話しました。やはり一番頼りになるのは、常日頃から訓練・連携をしている、地域に密着した地域消防団の皆さまであると声かけさせていただきました。

2024年のご挨拶

昨年10月21日の防災訓練では、議員がそれぞれ避難所や関係各所を訪問し、指揮系統を邪魔しない範囲で避難時の手順や問題などについて観察する機会を得ました。議員ならではの視点で防災・減災などにも取り組んでいきたいと思っておりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新島村議会議長
木村諭史

一般質問



とみた ひろあき 議員
富田 浩章

組織機構改革の
実現は？
一問一答方式

問 時代のニーズに即した組織体制にしていくことが基本である。改革を実施して、上手く機能しなかった場合や優先的な事業が発生した時などは、都度、変更していけば良いと考える。大沼村長は、組織機構改革に着手する考えはあるか。

答 少数精鋭の職員集団を構築することが理想である

が、一方で、多様化する行政需要に対応できる体制を整備していく必要がある。人材の確保に苦慮しているが、これまでに利用してい

ない求人サイトや民間との連携も含め確保に努めていく。その上で、令和6年度に概要を決め、令和7年度からの実施を目指す。

サーフィンアイランド
の復活を！
一問一答方式

問 世界に誇れるサーフィンアイランドだった新島は、観光においても重要なウェイトを占めていた。しかし、今は忘れ去られようとしている。

大沼村長は、誰もが知る新島のサーフィンレジェンドである。地元や島外サーファー、観光従事者の方々がサーフィンの復活を真剣に願っていることと

思う。容易なことではないことは十分承知しているが、ハワイのワイキキや隣島の神津島のように将来的に潜堤などの設置を計画、また、その前に杭などを実験的に設置してみるなど、他の案も含め、復活に向けて行動していただけるのか、村長の考えと意思を伺いたい。

答 かつては波があるのが当たり前で、全国からサーファーが来島し、修行のためにアルバイトなどをして長期間滞在していた。今でいう移住定住化のきっかけとなるような状況だった。しかし、現在の羽伏浦は、遠浅になるほどの砂の量が

なく、台風等で地形が整っても数日で元に戻ってしまふなど、地元さえサーフィンを楽しむ事ができなくなつてきていることに非常に寂しい思いでいた。

このような状況のなか、海岸浸食が急激に進行し始めたことで、東京都は昨年「羽伏浦海岸における浸食対策検討委員会」を立ち上げた。村はもとより、地元サーファー代表も委員として参加している。「浸食防止効果があり、かつサーフィンができる海底の造成等」ができないものかを、効果を含めて有効な手段を検討している。

取り急ぎの対策として、東京都が羽伏漁港に堆積する砂を火葬場北側付近の海岸に養浜している事業を、できるだけ南側に、また合わせて事業の継続と規模拡大を要望している。

当面は、砂が沖に運ばれて一カ所でも砂が付き、遠浅ポイントが出現するような手段を依頼していく。潜堤等の設



▲久しぶりに地形が整った2023年夏の羽伏浦

置についての質問だが、委員会でもシミュレーションした結果、あまり効果的でないことが証明されている。

問 事前に通知はしていなかったが、例えば「新島空港」、「新島サーフィン空港」、「新島港」を「新島サーフィン港」のように名前

を変更するなど、先行してイメージ戦略を手掛けていくなど考えられないか。

答 かつてのサーフィンの聖地「羽伏浦」の復活に向けて、あらゆる可能性を探り続けていく。

一般質問とは?

議員が行政に方針や施策、具体的な問題について質問をしたり、政策的提言をしたりすることです。通常は議会の本会議で行われ、質問は予め(本会議の1週間前)提出され、提出順に議員が質問します。議員の権利として希望した議員のみ登壇し、議員ごとに一括質問方式か一問一答方式が選択できます。質問事項の数の制限はありません。(令和3年9月定例から導入)

質問回数
3回まで

一括質問方式

議員が質問事項を一括して質問し、答弁者も一括して答弁を行います。

一問一答方式

質問回数
制限なし

議員が1つ目の質問事項を質問し、答弁者が1つ目の質問事項について答弁を行います。1つの質問が終わったら2つ目の質問をします。答弁者は2つ目の質問についての答弁を行います。

一般質問



おお ぬま ゆ み こ
大沼 由美子 議員



一問一答方式

新島村役場のDX化について

問 新島村の行政サービスにおけるDX化の進捗状況は？

答 児童手当等の手続きや、介護保険事業における自治体間連携等は既にDX化がスタートしており、デジタル庁の施策に沿った自治体情報システムの標準化・共通化にも対応準備中である。

また、DX化によるデータ共有・スケジュール管理や、オンライン会議等が業務の利便性の向上に貢献している。他にも、議会中継の新しいシステムの導入により、従来の多々の問題点も大きく改善された。

問 デジタル技術の進化により、絶えず変化していくデジタル社会に対応するため、高度な専門性に特化した「DX推進課」等の設置および専門職の採用予定は？

答 デジタル化推進担当部署の設置は以前から懸案事項となっており、必要性は認識している。多々の課題や職員不足の現状を踏まえて、検討していく。



一問一答方式

不登校児童生徒数等について

問 2023年10月に文部科学省より、昨年度の「小・中学校不登校児童生徒数」（病欠等を除く）が約30万人と発表された。新島村管内の不登校児童生徒数等や状況は？

答 「不登校」の基準は、「年間30日以上欠席したもので、管内に2名。その他、不登校傾向や登校渋り状態の児童生徒数が若干名と把握している。

問 不登校であっても、「適切な教育」を受けられる機会等を整備、提供しているか。

答 学校との繋がりを途切れさせないよう、それ

ぞれのケースに配慮した支援を心がけている。

また、令和3年4月から教育支援センターが「個別最適な学びの支援」を提供しており、成果も現れている。

Q&A ーT化、デジタル化、DX化って？

新島村においても、買物時のキャッシュレス、セルフレジが普通になり、上京時の飲食店ではタッチパネルで注文し、配膳ロボットさんにも慣れた。恐るべきスピードで世の中が大きく変化している。より良い便利な生活のためをモットーに、先進技術に翻弄され……皮肉なことに次世代を担う子どもたちは、大切な学びの庭にどんどん背を向けてしまう。子どもたちが「生き辛い」社会に、果たして明るい未来はあるのだろうか。



◀東京都庁におけるDX化の取り組み

※DXとは？
デジタル技術を活用して生活やビジネスを変えていくこと。2021年のデジタル庁発足以来、少子高齢化社会の人口減少による人材不足に対応すべく、地方自治体の迅速なDX化が推進されている。

一般質問



あや 綾 とおる 議員

式根島でも
眼科専門診療を

一問一答方式

問 必要な医療を適切な時に受診できるようにすべき。住民の願い、いつまでに実現するか。

答 式根島での実施は必要だ。医師の確保、機器の導入含め、実施に向け準備を進める。6年度計画、7年度実施を目指す。

問 1年以上空白になる。医師の確保は目途がある。機器の購入は、前倒しできないか。

来春の保育所は
万全か

一問一答方式

問 村長の公約にある「誰でも保育園」とは。

答 就労要件を問わず1〜5歳児の保育を考えている。検討・具体化を図る。

問 待機児童の発生が連続してはならない。保護者・児童の未来がかかった問題だ。

答 10月の保育士採用で、待機児童は解消した。4月の転出入があるが、万全の準備を進める。

島外受診助成、
全住民対象に

一問一答方式

問 制度創設から5年を迎える。「全住民を対象とした」制度を目指してきた。村長は「通院助成の拡大」を公約で掲げた。

答 医師の判断のもと、年齢制限なしに助成する制度を考えている。助成

金額・回数などの拡充を目指す。6年中目途に制度設計、7年度中目途に改正考える。

内視鏡を選択できる
「胃がん検査」を

一問一答方式

問 以前、内視鏡検査を選択できるよう提案した。アンケートがされた。内容は。

答 検査方法の希望を聞いた。回答82名、内視鏡検査46名、エックス線検査19名、その他17名。

問 都保健医療局の資料では、内視鏡検査の自治体で、がん検診受診率が高い傾向だ。多くの住民に検査を受けてもらえるよう、内視鏡の選択を。

答 アンケートでは、内視鏡希望が多かった。委

託医療機関と協議し、検査方法等を検討する。

会計年度職員に
最低賃金適用を

一問一答方式

問 総務省通知で、会計年度職員の「適切な給与決定」として、最低賃金を踏まえること、となっている。

答 年度内是正を目指す。5年4月にさかのぼり差額支給する。

村営住宅入居時の
保証人を不要に

一問一答方式

問 法律も都条例も保証人条項を撤廃した。村も条例改正し住民周知を。

答 免除条項があり、現在改正は考えていない。

学校給食費無償化へ、
公約実現の第一歩！

一問一答方式

問 給食無償化について、4年半、6回の質問で取り上げた。村長は「学校給食無償化等の子育て支援」を公約で掲げた。いつ実施するか。

答 子育て世帯の負担軽減のため、早急に導入し、令和6年4月より、継続的施策として実施する。財源としておむね1千万円を見込む。

一般質問



議員 佳利保 久小

！ 災害時の応援協定を距離的に離れた自治体に！

一問一答方式

問 南海トラフ地震発生時には東京諸島の町村も新島と同様の被害が想定されるため、新島村と距離的に離れた自治体との応援協定を結ぶ検討をしてはいかがか？

答 災害時応援協定においては、東京都と都内の区市町村間で災害時等の協定を締結している。全

国的に応援協定を広域に設定する自治体が増えていく。当村においても地域の設定を含め、防災会議等により今後検討を進める。(村長)

問 庁舎の被災やマンパワー不足が想定される新島村での被害では、医療に必要な資機材や生活物資の提供、復旧活動に必要な職員やボランティア派遣などの人的な支援も必要。援助を受ける「受援体制」を整えることも重要。

答 災害協定は助けてももらうだけではなく、協定を結んだ先が災害に遭った時は協定に従って新島村も支援物資を送ったり、職員を派遣したり、相互関係になると思う。その辺もじっくり考えたい。(村長)

！ 新島高校にも学生寮を！

一問一答方式

問 離島留学生の受け入れを継続するためには、ホームステイ先の確保が課題。また、式根島生の連絡船にしきでの通学は、天候や海上状態に左右される。寮ができれば、留学生の募集枠の増加、式根島生の利用も想定できるのでは。

答 ホームステイ方式でスタートし、数年の継続と実績を踏まえながら寮方式に移行していきたいが、ホームステイ先の新たな確保には限界がある。新築にこだわらず、寮方式に向けた具体的検討を早めていくことを望んでいる。また式根島からの生徒についても問題調整が必要だ

が、新島高校への通学生が増えることは学習環境の確保と活性化、この先の新島村の地域づくり全般においても大きな意義を持つ。新島高校を所管する東京都にも一層の離島留学取り組みの推進、また支援等を要望しつつ、連携を強めながら、離島留学の充実を努めたい。(教育長)

答 学生寮の必要性は十分に認識している。式根島から新島高校に通うのも離島留学の一つだと思う。また、島の中学校を卒業し都内の高校に進学する学生の支援というものも考えていきたい。(村長)

ひびき 新島高校太鼓部は同好会から始まり、25年の歴史を持つ。今年度の都大会で悲願の金賞を初受賞。個人賞受賞生徒も最多数輩出し、少数精鋭でがんばっている。今春部員数が激減し存続の危機になったが、離島留学生含む1年生が数名入部した。生徒が増えれば入部希望者も増えるだろう。太鼓部の歴史を存続させるためにも、寮の整備を切望したい。



▲カルチャーマガジン「にいじまぐ」の新島高校太鼓部特集(QRコードを読み込むと記事を読めます)



一般質問



よし み かず ゆき 議員 吉見一之



山林や不耕作農地等の伐採木・倒木処理をどうするか？

一問一答方式

問 新島の山林は間伐も行われてなく、以前の大規模台風による大量の倒木も放置されている。このままでは地滑り等、災害の原因になる恐れがある。計画的に間伐や倒木の処理を行わなければならないと思うが新島村の見解はどうか。

答 村としても現状は把

握しており改善を検討しているが、伐採については個人所有の場所も多く、慎重に対応する必要がある。

問 農地も山林化が進んでいるが、伐採木や倒木の処理については今のところ「島外搬出」または「規格内寸法に切断のうえ少量ずつ焼却施設に持ち込む」ほかに方法がない。そのため伐採が進まず「放棄」状態にあり、次の世代がその責を負うことになるのは明白。今から村全体の問題として、伐採木の仮置き場やチップ化・たい肥化等、島内での最終処理方法も併せて検討していただきたい。

答 現状では個人の負担が大ききことは理解しているのですが、改善していかなければならない問題だと考えている。内容など

吟味しながら検討していきたい。



公共事業の経済効果を最大限に

一問一答方式

問 新島における公共事業は、島の経済を支えている。最大限の効果があろう立案・計画していただきたい。

答 公共事業の経済効果は、島全体に及び、その重要さは理解している。村としても最大限の効果を念頭に計画している。

問 決算報告からも村の努力が伺えるが、それに反して住民からの評価はかけ離れていると感じる。そのことから村長は率先して、住民に対する説明努力や理解を得るための努力をするべきであると思う。

答 村長に就任してまだ「政」であり、今後十分に間もないが、私自身の考えは「住民に寄り添う村 たい。（村長）」

ひまわり

今回は従来の村政に対する批判ともとれる発言をしたが、村政の実績と住民の評価に齟齬（そご）があると感じたため発言した。というのも私を含め、議会の質問や提案等が実際に進んでいるのか？ 不可能なのか？ 不可能であればその理由等、ほとんど伝わってこないと感じたからである。

この度新村長が就任されたので、今後期待と応援の意を込め、あえて発言した。

そう言いながらも：「私も住民に十分な説明をしていないな」と気づき、猛反省した定例会であった。



▲山林化が進む農地



まえだ かつとし 議員
前田 勝利 議員

一括質問方式 組織改革と住民参加型 の行政運営について

問 村長は、今の行政に求められていることは、「動かす力」「進める力」そして「住民に寄り添う力」だと言っている。住民サービスの向上のため、住民に対していくつかの政策を約束しているが、そのなかの一つ「組織改革と住民参加型の行政運営」について伺う。
必要な人材を早急に確保し、行政機能が十分に発揮

できるような組織を改革し、住民参加型の行政運営を行うとしているが、まず必要な人材とはどのような人材を指しているのか。そして住民参加型の行政運営とはどのようなものなのか。

答 人材の確保は一般行政職も含まれるが、特に

医療人材、保育人材の確保が重要であると考えている。私の目指す「誰でも保育」を実現させるためには、保育人材の確保が必須となるので、しっかりとした人材を確保し、対象年齢であれば誰でも安心して預けられる体制をつくっていく。

医療人材についても診療所やさわやか健康センターの専門スタッフを充実させるとともに、社会福祉協議会やまゆう会などと連携を取りながら進めていく。

住民参加型の行政運営には、住民の声を聞き、それを十分に確認し、事業を進めていくうえで大きな判断材料としていくことが大事。住民からの声を積極的に拾い、それを必ず検討の対象とし、スピード感をもって対応していく。

問 組織の改革は、村の将来を見据えたうえで、住民サービスの向上をはかることが大事。窓口業務などは住民が困らないような整備が必要だし、職員のレベルアップも必要になると思うが。

答 組織の改革は、住民がわかりやすい組織とし、住民サービスの向上がはからなければならないと考えている。住民に不便を感じさせないような対応ができるよう、慎重かつ積極的に進めていく。



▲組織の改革は、住民サービスの向上が必須

決算委員会特集

民生費

特養老人ホーム運営費への助成

概要…新島特養老人ホームの運営は構造上の赤字が毎年1千〜2千万円あり、抜本的な改革が求められている。

問 抜本的な構造改革はないか？

答 現在老人ホームの構造は、旧棟34床とユニットタイプ14床の計50床からなり、構造上必ず赤字となる。しかし行政の責任として支援し続けなければならぬと考えている。現在シヨートステイを少なくし、本入所のベッド数を増やす手続き中であり、ヘルパー事業も含めて収益を上げる取り組みを模索している。

観光費

地域休養施設に対する住民からの要望

概要…地域休養施設（間々下温泉施設）には男性用露天風呂に水風呂が設置されているが、女性用には設置されていない。

問 住民からの要望で間々下温泉施設の女性用露天風呂にも水風呂の設置を求める声がある。

答 検討する。

消防費

太陽光・蓄電池設備設置事業

概要…かねてから式根島に緊急時の太陽光蓄電施設を作る計画があり、予算4860万円を計上してあったが、今回取り下げられている。

問 この計画がなくなった経緯は？

答 従来の計画は太陽光パネルと蓄電施設の建設を進めていたが、さまざまな検証をした結果、当初計画した効果が認められなくなったため、根本的に計画を変更したことによる予算の削除であり、計画そのものがなくなったわけではない。発想を変えて「蓄電池を電気自動車に置き換え、充電を太陽光パネルで補う」といったものを考えている。

連絡船事業費

備品購入費

概要…一般運行管理費のうち連絡船代船購入費として4550万円が計上されていた。

問 購入はいつ決定したのか？

答 5月30日の運営委員会、6

月7日の代船購入についての審議を経て、村長判断で予算計上した。

問 定員数や大きさ、船体等の詳しい情報が欲しい。

答 候補としては小笠原で使用していた観光船で、船体はFRPで全長19・85m、総トン数18トン、定員は40名、エンジンは2基掛、また造船は現行の連絡船と同じIH Iであるため信頼性もある。

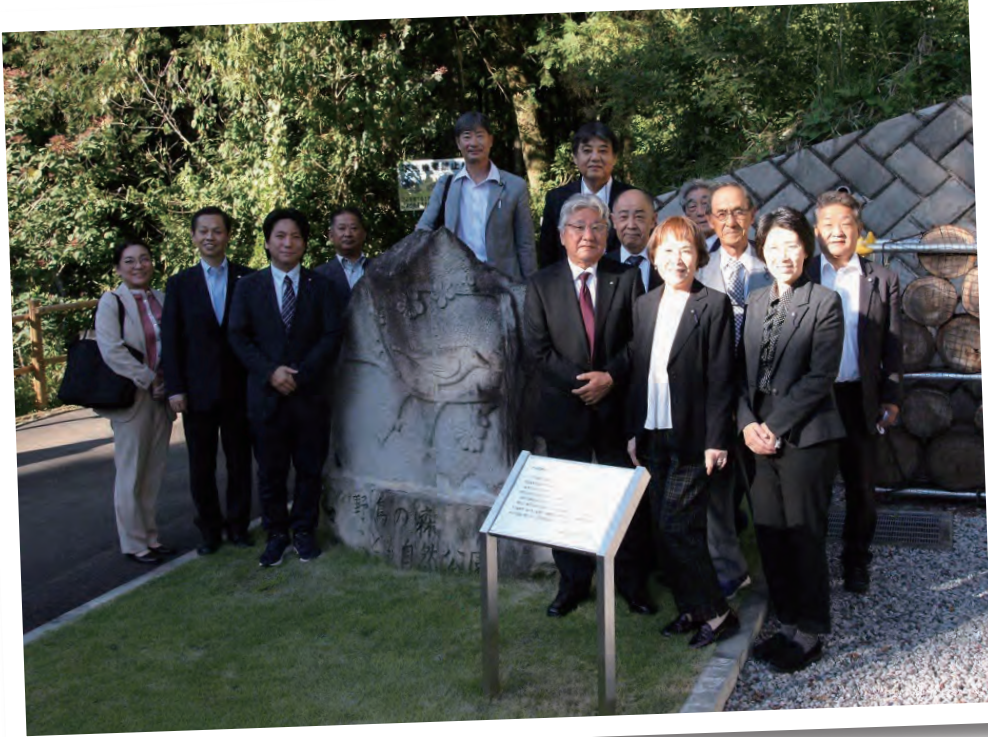
問 許可や環境の違いもあると思うので慎重に進めてほしい。



▲代船として購入予定の船

令和5年度 新島村議会議員視察レポート

吉見 一之



▲日の出町野鳥の森自然公園にて。新島村からコーガ石のモニュメントが友好町村の証として寄贈されている。日の出町議会・東亨議長、縄井喜代子副議長と

コロナ過の影響により数年ぶりとなる新島村議会議員視察を、令和5年10月16日から18日の3日間の日程で実施しました。10月18日に都内で開催された全国漁港漁場大会に新島村議会として出席すること、コロナ禍で見送られてきた友好町村「東京都日の出町」へ交流訪問をするのが目的です。経費節約のため、一度の上京で全てを済ませる上、全行程を公共交通手段で移動するという、かなりハードなスケジュールでした。しかも世の中そううまくはいきません！本来は15日に上京予定でしたが、天気予報が悪かったため急遽14日に上京することになりました。総勢10名以上の一団が船や飛行機、宿泊先の確保にてんやわんやとなったことは言うまでもありません。しかし1日早く上京したおかげで、14・15日に日の出町で開催された新島村からも出店していた「日の出町産業祭」等に参加する機会が得られたことは不幸中の幸いでした。詳しい内容は個別にレポートがありますので、ここでは割愛させていただきます。なにはともあれ無事遂行できたことをご報告いたします。

【視察の日程】

- 15日.. 各人活動
日の出町産業祭
江東区民祭他
- 16日.. 日の出町
歓迎セレモニー
意見交換会後
日の出町施設視察
- 17日.. 都庁
DX化に向けての
意見交換会
- 18日.. 東京国際フォーラム
全国漁港漁場大会

※その他、隙間時間を活用して各自議員活動を行いました。

日の出町視察報告記

綾 とおる

10月16日に実施した、東京都日の出町への行政視察について報告します。

「全国」の福祉のまちを目指し

(子育て福祉課、いきいき健康課の資料による)

平成3年(1991年)、当時の村長の決断で、国に先駆け独自の福祉施策を取り組む「日の出福祉村構想」を発表。障がい者施設や、老人ホームをはじめ福祉施設の誘致を開始。温泉源の採掘・温泉センター開設をはじめ、「生涯青春」「百歳万歳」と冠が付けられた高齢者施策が打ち出されました。

高齢者福祉に次いで子育て支援!

福祉村構想が一段落した平成17年、合計特殊出生率が東京都の平均を下回る0・88となり、少子化が深刻な課題として顕在化。「子育ての負担が過大となり、親が育児に二の足を踏む現実を解消し、国などが本格的な少子化対策を実現する端緒となることを願い」、ただちに「次世代育成プログラム」を掲げ、少子化対策を推進。

のちに2つの施策を追加し、平成28年には、合計特殊出生率1・82と国、都の平均を大きく上回りました。このような取り組みのもと、年少人口は約11700人から2400人へと増加し、確かな成果をあげています。

予算の4割が民生費

このような施策を進める基盤として、三多摩廃棄物処分受け入れ、工業団地誘致、イオンモールの進出など、経済的、財政的に大きな構造変化がありました。

この10年、歳出の約4

割を民生費が占め、独自の高齢者福祉、子育て支援費が5%前後を占めています。現在は社会的なニーズなどが変化し、「福祉単独施策の見直し」を進めています。

私は、果敢な挑戦と機敏な対応、継続と変化の、決断の連続だったと感じました。少子高齢化の課題に取り組む新島村にとっても、示唆に富む視察でありました。



▲日の出町役場にて日の出町議会と意見交換会。挨拶されているのは日の出町議会の東 享議長

都庁でDXについての勉強会

富田 浩章

10月17日午前10時、DXについて学ぶため都庁デジタルサービス局戦略部を訪問。私たちは「にわか知識で物事を語るのではなく、謙虚に【一から学ぶ】」という姿勢で勉強会に臨みました。

そもそもDX（デジタル・トランスフォーメーション）の意味は何でしょうか？ 辞書的に言えば、トランスフォーメーションとは、英語で「変化・変形・変容」を表します。つまり、「デジタル化により社会や生活の形・スタイルが変わること」です。

自治体に例えれば、「人材不足を補い、経費の削減や業務効率化を図り、住民の利便性、サービスのさらなる向上に繋げて

いく」と置き換えることができるのではないのでしょうか。

東京都は、2019年にヤフー元社長の宮坂学副知事が就任されてから、加速的にDX化が進みました。

いくつか事例をご紹介します。

「レス化推進プロジェクト」

- ① ペーパーレス／2022年時点のコピー用紙調達量は2016年と比較して70%削減
- ② FAXレス／99%削減
- ③ はんこレス／電子決定率は99.5%
- ④ キャッシュレス／都民利用施設の78施設が導入完了

他にもさまざまな事業を現在進行形で展開していますが、紙面の都合上、全てを載せることはできませんのでリンクを張っておきます。

現在、議会が率先してDX化を行っていますが、村は東京都など関係機関と相談・支援を受けながら事業展開を行っていきます。

終わりにりましたが、アドバイスをしていただいた宮坂副知事をはじめ、久賀谷戦略課長・職員の皆様、貴重なお時間をいただき誠にありがとうございました。



東京都デジタル局

<https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/>

QRコードを読み込むとサイトを見ることができます。



▲未来型オフィス

フリーアドレススペースを各局に設置。書類を持ち歩かない新たなワークスタイルが定着している。

全国漁場漁港大会

吉見 一之

10月18日に東京国際フォーラムにて開催された、全国漁港漁場大会に新島村議会議員一同で出席しました。本大会は全国の水産情勢や新しい取り組み等を発表し、今後の全国規模の指針を図り、国政に訴えることを目的として毎年開催されています。

近年のコロナ禍により数年ぶりとなった開催ですが、全国大会だけあって巨大な会場には名だたる国会議員や都道府県知事、市区町村長、水産関係者、港湾建設系大手ゼネコン等、数千人が一堂に会する集会で、壮大の一言でした。

なかでも近年の海水温の上昇は全国規模の現象

であること、各地域でも対応に苦心していること等が非常に印象的でした。当然我々が発言するような機会はありませんが、多くの関係者とお会いでき、名刺交換や意見交換ができたことで有意義な人脈を築くことができたと思います。情報収集の機会が広がったことにより、今後とも新島の水産情勢、港湾情勢等に貢献できるよう努力します。



▲有楽町東京国際フォーラムで行われた漁場漁港大会

鳥取砂丘メモ 木村 諭史

東京都町村議長会主催の鳥取県琴浦町議会訪問で、鳥取砂丘に立ち寄った際の気づきをまとめます。

丘の開発と保護の説明パネルがありました。

周辺地域は、砂丘の広がりを抑える植林エリア、砂質を活かした農業エリア、生活エリアと3層に分かれていたり、また砂丘中央の窪地の水場をオアシスに見立て、生態系の保護も行っていたりするなど、多様な視点でのエリア分けが印象的でした。

入口から裸足で徒歩15分ほどで奥の砂丘の頂点に立てましたが、砂丘エリアには余計な人工物もゴミも目に入らず、コンパクトでありながらスケール感がある景観でした。

砂丘麓のビクターセンターには、風によって作られる風紋や安息角（砂の傾斜角度）の実演装置、鳴き砂はじめ全国の砂の展示、砂

西風や飛砂の強さは当村でも同じですが、活用・共存していく姿勢こそが地域の底力であると実感できました。



▲砂丘のオアシスの看板。地域の生活空間、砂丘、オアシスと、目的によって入れ子構造で保全されている。

広報 クリニック

8月25日 / 出席議員
吉見一之・小久保利佳

これまで住民にわかりやすく、議会を身近に感じてもらえるように議会だより改革を進めてきましたが、今回初めて広報クリニック研修を受けました。

実際に新島村議会の議会だより104号をもとに添削していただき、良点として各ページに写真・キャプションがあること、スピーカーズの見出しが挙げられました。また広報において見出しを印象的にすることは重要で、議案名や「……について」という言葉を見出

しにするのではなく、「何がどうなった」と見出しで内容がわかるようにし、本文に引く張る書き方に改善するよう指摘されました。各議員に共有し、クリニック研修を生かし、より良い議会だよりを制作してまいります。(小久保利佳)

広報 研修会

9月27日 / 出席議員
青沼弘・大沼由美子

弁護士・メデアプランナー・グラフィックデザイナーの3名の講師の方に、それぞれの分野で講義をしていただきました。

まずは、「広報担当者が知っておきたい法律知識」と題し、広報活動と権利

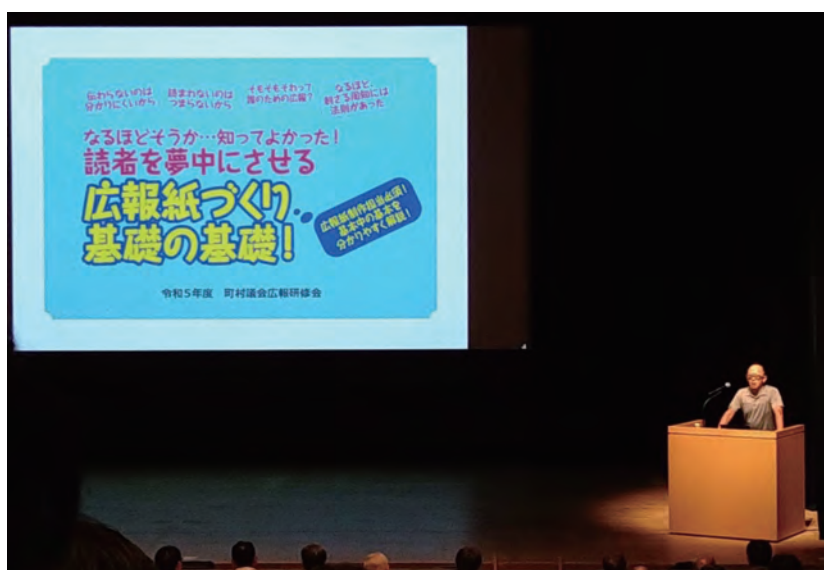
侵害について、著作権・肖像権・プライバシー権・パブリシティ権その他、個人情報保護条例違反等に留意することを説明していただきました。

次に、「広報誌づくりのポイント」として、広報誌づくりは、地域住民に対する行政情報周知の『手段』であり『目的』ではないことが重要。住民ニーズをしっかりと捉え、心地よい住民目線、いつも地元ファーストなセンスを感じる企画編集、住民みなが閲覧しやすい広報誌を目指すことが重要と学びました。

最後に、「デザイン力で、もっと伝わる議会広報誌に」ということで、広告チラシやポスターなどのデザインやレイアウトを中心に紹介されました。

広報誌は発信側の一方

通行にならないことがとても大事だと感じた研修会でした。(青沼弘)



▲広報研修会にて。今期から10名全員の議員が広報委員会になり、議会だよりの充実を目指しています。

島の未来も議会改革も 小さな一歩から

～議長も走って生活習慣改善～

4年ぶりとなる新島村民
ロードレース大会が、駅伝
大会と合わせて1月14日に
開催されました。私も国民
健康保険運営協議会の会長
の立場も兼ねて、担当職員
が用意した『健康増進で医
療費削減』のタスキを着け
て参加しました。

**村の財政も
あなたの財布も
身体も健康に！**

国民健康保険運営協議会
では、医療費に合わせた国
保税などの協議をしており
ます。高騰する医療費や働
き盛りの若年層加入者の減
少のほか、国保税負担にあ
たつての構造的な問題も議
論されています。

医療費削減の自助・共助
として最も有効なのが、健
康増進だと思えます。村の
負担だけでなく、個人の経
済的負担も減り、よりよい
人生を過ごすための基盤に
なると思えます。

**週3回、
軽く汗ばむ程度、
30分程度の運動**

恥ずかしながら私も10年ほ
ど前の健康診断で生活習慣改
善が必要と指摘を受けてはい
たのですが、議員になる前は
積極的に改善に取り組んでお
りませんでした。しかし先輩
議員や議員になってほしいと
願った方が逝去されたことや、
さわやか健康センター担当職
員からの連絡を契機に、定期
受診と生活習慣の改善に取り
組むことにしました。

週3回、軽く汗ばむ程度、
30分程度の運動を目安にして
います。駅伝大会の平均的な
コースは3km前後なので、コ
ースを走り、早足で帰宅する
ことで30分程度の運動時間を
丁度良く確保できます。

**島は運動に
最高の環境**

当村は、海沿いを朝日や夕
日を見ながら、信号に捕まる

ことなく走ることが出来る素
晴らしい環境だと思えます。
運動が苦手の私でも継続でき
ました。
ぜひ皆さまも、毎年の健康
診断と日々の運動習慣、3ヶ
月より少し短い期間での歯科
通院（再診料扱いで安くなる）
を進めていきましよう！

◀本村診療所の
浮島先生（左）に
も、もう一つのタ
スキを掛けて走
ってもらいました



編集後記

令和5年第4回、定例会、
総務常任委員会、経済常任
委員会が開催され、多くの
質問が出ました。令和5年
の新島村では、2月の議会
議員選挙で4名の議員が変
わり、がんばっています。ま
た、10月には村長選挙も行
われ、新たに大沼弘一村長
が誕生しました。

村のトップ2が変わり、
行政運営（住みよい島づく
り）に期待するところです。

なお、新型コロナウイルス
も2類から5類に移行さ
れ、ある程度の行事（活動）
もできるようになり、新島
村議会でも4年ぶりの島外
活動として友好町村の日の
出町に表敬訪問してきまし
た。町長をはじめ、議員の皆
さまとの意見交換ができて
ました。大沼村長も同行して
いただき、有意義な視察を
終えることができました。

前田 壽夫

スピーカーズ コーナー

広報委員が地域の皆さんに
インタビュー!

地域の未利用魚などに付加価値をつける、
商品開発を17年以上続けている、

式根島おさかなサービスの皆さんにお話を伺いました。

(取材/吉見一之)

吉見/活動のきっかけやコンセプトは?

おさかな/平成18年に離島再生事業費補助金を受け、「未利用魚等を加工商品にして有効活用する」というコンセプトで当時の式根島漁協女性部を中心に発足しました。

吉見/当時は本村や若郷地区もそれぞれのコンセプトで発足しましたが、現在も活動を続けているのはおさかなサービスだけになってしまいましたね。

おさかな/そうですね。当初のコンセプトを変えずに活動しているのは、うちだけになってしまいました。よくぞ今まで続いた!と思います。

吉見/主な商品は?

おさかな/時季によって違いますが、よく売れるのは赤いかやキンメダイの一夜干しで、お歳暮やお中元などに重宝されています。でも原価が高騰したり、水揚げが無かったりで魚の確保に苦心しています。

吉見/今まで活動してきて苦労したことは?

おさかな/苦労の連続でした!当初は地元漁業者ともうまく連携が取れなかったり、メンバーは皆本業のかわら女性部の活動も同時にこなしているの、人手不足のなか納期に間に合わせたりの連続でした。なかでも一番苦労するのは魚の調達です!

吉見/逆に良かったことは?
おさかな/お客様に喜んでもらえるときは、本当に嬉しいですし、やりがいを感じます。

吉見/今後の活動は?

おさかな/今後もずっと活動を続けていきたい!ですが、行政の補助なしでは到底運営できないので、今後とも

補助を続けていただきたいと思います。
吉見/行政に対して要望等ありますか?

おさかな/現在拠点としている式根島漁協の加工場は、老朽化が激しく修繕が必要な状態なのですが、景気が悪いなか漁協が修繕する余裕はないと思うので、可能ならば行政に支援していただきたいと思います。

吉見/皆さんとても明るく、並大抵の苦労は笑い飛ばしてしまいうエネルギーを感じました。今後さらなる躍進を期待します。



▲左うしろから 渡辺さん、前田さん、西村さん
左前から藤井さん、宮川さん、津山さん

式根島漁業再生プロジェクト (おさかなサービス)

メンバー: 肥田英文さん(代表)、渡辺浩子さん(副)、藤井静枝さん(会計)、宮川みゆきさん、西村麻理子さん、前田咲子さん、津山千登世さん、西村恵美さん、西村芳之さん、渡辺登馬さん
お問い合わせ: 式根島観光協会
または 090-2182-9372まで



▲商品 (新島農協にて)